

清宮秀堅 せいきうしゆけん 國學者。文化六年十月一日下總國香取郡佐原生れ、
 明治十二年十月二十日歿（一八九一七九）。字穎葉、通稱秀太郎、總三郎、
 利右衛門。號棠陰、鎌浦漁者、總迺家。少時兩親を亡くし、父の書い
 より獨學、久保木清淵、宮本茶村に習す。二十七歳に里正。領主津田
 氏より苗字帯刀を允ゆるされ、回家の給人格二十餘年、土席兼地方事を務
 め、物頭格に進む。維新後印旛縣出任、次ついでに新治縣の地誌編輯主任とな
 り、晚年權中講義に補せらる。地理に詳しく、藤森大山、大橋訥菴、
 鹽谷岩陰、黒川春村等と交遊。著作頗る多し中、こ下總國書事考が
 有谷。

『北總詩話』(再版・明治二十一年十一月二十一日十葉・清宮利右衛
 門校訂)、訂正『増補新撰年表』(安藤一郎訂正増補、訂正増補三版・明
 治二十二年四月一日競英堂藏版、中村善七發賣)、『雲烟略傳』(根
 見繁一編、内題「雲烟所見略傳」大正八年一月十八日繪巻圖書刊行會
 ・吉川弘文館「藝文叢書」)等刊。

